

令和 6 年度第 2 回定例役員会議事録

IOC（岩切おもしろ倶楽部）

日時：令和 6 年 6 月 7 日（水）14:00

場所：岩切市民センター講義室

I. 出席者

会 長	渡邊 敏之	岩切市民センター	清水 ^{あやか} 彩花様
副 会 長	—	岩切市民センター	—
総 務	—	岩切地域包括支援センター	—
会 計	嘉藤 和男		
幹 事	熊谷 ^{まこと} 實		
幹 事	富塚 和衛		
監 事	手嶋 康夫		

II. 会議（司会：嘉藤会計）

1. 渡辺敏之会長挨拶

先般の「ぶらっと街歩き」は「余目界限」でした。私はお寺の行事が入りまして欠席させていただきました。今日はその反省会でもあります。大変好評であったと聞いております。大変ご苦労様でした。好天にも恵まれてよかったですね。今日はそのあたりの振り返りと、今後いろいろな行事がありますので、その段取りを含めて、ご意見をいただきたいと思います。或いはそのほかの情報があれば、是非ご発言いただきたいと思います。私からも後ほどご提案がありますのでよろしくお願いします。

2. 「ぶらっと街歩き/余目界限」振り返り

日時：5 月 25 日（土）9 時 45 分～12 時

- ① 嘉藤和男会計から街歩き開催当日の様相について、鈴木健治総務が作成したレポート（別添）に基づき説明があった。
- ② このレポートは、賛助会員全員に送るべきとの意見があったので、次回イベント「小さなお話会」の案内文書送付時に同封することとした。
- ③ 遺跡の殆どが消失してしまっている当地において、参加者の反応が心配であったが、「説明を聞いて、いにしえの口マンを感じることができた」と好評であった。
- ④ 来年度については「山崎界限」を街歩き候補地として準備を進めることとしたい。

3. 「小さな話し会」について

- ① 日時：7 月 19 日（金）13 時 30 分
- ② 場所：第 1・第 2 研修室（会場抽選申込済み）
- ③ 演題：「アメリカに渡って 22 年」
- ④ 講師：鈴木 聡 氏（アメリカ在住）

岩切生まれ、岩切小学校、東北学院中・高・大卒
現在カリフォルニア州ハイワード市在住

- ⑤ チラシを作成し、賛助会員宛て送付
- ⑥ 市民センターだより掲載
- ⑦ 聴講予約は市民センターまたは役員まで

4. その他

① 岩切寄席出演者について

- ◆ 落語 出演交渉は冨塚和衛幹事ルートにて行う
- ◆ 大喜利 今回は大人による大喜利 出演者は SBL・町内会・市民センターの皆さん
- ◆ 演歌 熊谷寛幹事ご友人のアマチュア演歌歌手によるフランク永井メドレー

👉 来年度以降の演歌部門候補 登米市米山町在住の演歌歌手「藤原彩代」さん



宮城県登米市米山町で農業を営みながら演歌歌手活動続ける藤原彩代さんが、5枚目のCDシングル「ねざらい酒」（夢レコード）を発売した。アイドル歌手を目指して上京し、演歌歌手として2002年に「おさい銭」でデビューした藤原さんは、数年前に地元に戻り、現在は「農業系シンガー」をキャッチフレーズに歌手活動の傍ら、養蜂やシイタケ栽培、タケノコ加工品を手がける。地元FMラジオ局の番組にも出演する。

② 楽しく飲む会開催について

- ◆ 日時 **6月21日（金）18:00～20:00**
- ◆ 会場 洞ノ口公民館
- ◆ 会費 男性 2,000円 女性 1,500円
- ◆ 出席者 いつもお世話になっている方々と IOC 役員 20名
- ◆ 熊谷寛幹事のご友人のアマチュア演歌歌手（一昨年のフランク永井コンクール優勝）をお招きする。

ご注意！

III. 次回役員会について

1. 日時：**8月2日（金）14時00分**
2. 場所：岩切市民センター講義室
3. 議題：
 - ① 「小さなお話会」ふり帰り
 - ② 「音楽鑑賞会」クラシック・カフェについて

以上

令和 6 年度「ぶらっと街歩き・余目界限」レポート 鈴木健治

「余目界限」は令和 4 年度にも企画されたものの、雨のため中止。代わりに市民センター研修室において、座学「mini 歴史講座」を行うことになった経緯がある。

「やはり実際に歩いてみたい」という要望が強く、今回開催することとなった。

日時は令和 6 年 5 月 25 日（土）10 時～12 時。集合場所と解散場所は岩切市民センター。参加者 18 名、スタッフ 5 名の総勢 23 名。当日は時折風が吹いたが、幸い寒くもなく暑くもなく、ぶらっと街歩きには程よい天候に恵まれた。

案内役は岩切おもしろ倶楽部（IOC）副会長の三浦雄司氏。それに岩切歴史探訪の会の佐々木文彦さんにも加わっていただいた。

出発前に、玄関前で三浦副会長から挨拶と本日歩くコースと余目の概要についてお話があり、すぐに出発ということになった。

岩切市民センターを出発するとすぐに利府街道に架かる歩道橋を渡り、さらに東北本線に架かる歩道橋を渡っていよいよ余目地区へ足を踏み入れる。

そこからしばらくは田子用水路に沿ってひたすら歩く。道すがら、三浦雄司氏が熱く語る「余目」の地名の由来や田子堰拡大の歴史、東北最大の都市に至る壮大な話に耳を傾ける。

やがて、ひとつの菩薩堂に行きつく。観世音菩薩堂だ。右の観音様には天明 6 年、左の観音様には正徳 2 年と刻まれている。中央の観音様には年代不明であるが 300 年以上前に作られたと思われる。そして、お堂手前には船形山神社碑、お堂左には馬頭観音が祭られている。

また、観音様の左手前には三猿を彫った丸い形の碑「庚申塚」（宝暦 12 年とある）がある。三浦雄司氏のお話は「名剣屋敷」「伊澤家影公屋敷跡」「余目城」と続き、さらには「余目の刀鍛冶」「留守氏」「今市」の話へと続く。

余目集会所へと歩みを進めると、「藤子山神社（神明社）」（鴻巣 2 号公園近く）にたどり着いた。この神社は以前は七北田川の川べりにあった（新幹線鉄橋の橋げたのところ）が、頻繁に洪水で流されるため、現在の位置に祀られるようになったという。

余目集会所のある公園で一休み。嘉藤氏が前もって木陰に椅子と冷たいお茶を用意しており、一息入れる。一息入れている間にも三浦氏の話は続き、私たちは聞き漏らすまいと耳を傾ける。時折話をはさまれる探訪の会の佐々木さんのお話も面白い。

帰りには七北田川右岸の堤防沿いを辿り、岩切市民センターへと向かう。帰り道の途中にも何度も立ち止まり、参加者からの質問に丁寧に答える三浦氏の姿があった。

